



野生植物研究所だより



● 夏の訪問者 研究所の蝉たち ●

当研究所の庭には、沢山のセミの幼虫が生息し、夏になると地面の穴から抜け出し、毎年のように大発生します。夏まっ盛りのこの時期、けたたましいほどの蝉時雨が鳴り響いています。遊びに来た子ども達は、セミの多さに驚くとともに、



アブラゼミ



ニイニゼミ



ミンミンゼミ

虫取り網を片手に大喜びで走りまわり、セミを捕まえたり、ぬけがらを探し集めたりして、夢中になって楽しんでいました。

【セミの種類】セミの種類は4種類で、一番多いのがアブラゼミ、次に多いのがミンミンゼミ、そして残りの2種類のセミはヒグラシと小型のニイニゼミです。

【セミの数】太いカツラの木、アキニレなどの幹や葉には、常に百匹以上のセミがとまっています。細い木や背の低い木にも何匹もおり、全体数はゆうに千匹は越しているものと思われまふ。所長宅の壁や網戸などにも、10匹ぐらいはとまっています。



セミのぬけがら

【セミのぬけがら】セミのぬけがらも庭のいたるところでたくさん見ることができます。地上3メートルほどの高いところから、数十センチほどの低いところまで、木の枝や葉にセミのぬけがらが残されています。

【セミの穴】庭の地面には、セミの幼虫が出てきた穴がたくさん見られます。先日、特に穴の密生している場所に巻尺で1メートル四方のわくをつくり、



セミの穴とぬけがら

その穴の数を数えてみたら、なんと34個もありました。

● 招かざる客 カラス族の襲来 ●

セミが大発生する夏場になると、毎朝、決まった時間にカラスが訪れます。セミを捕まえて餌にするというわけです。驚いたことに、カラスがセミを捕まえる方法に進化がみられるのです。

【近年のセミの捕まえ方：木への直接襲撃】朝5時半頃になると4、5羽、多い時には10羽ほどのカラスがやってきて屋根にとまります。そのうち何羽かが高い木の先端部の方にもぐって行きます。カラスが木に入った瞬間、何十匹というセミがジジジジジッと鳴きながら空の方に向かって飛び立ちます。屋根で待っていたカラスはその飛び出したセミを捕まえて食べるというわけです。

【数年前までのセミの捕まえ方：空中旋廻による威嚇】数年前までのカラスは違う方法でセミを捕まえていました。所長宅の屋根と、庭を挟んで建つ別棟（現在、野生植物研究所の事務所として使用している建物）の屋根の2箇所におかれてカラスがとまります。別棟にとまっているカラスが飛び立ち、カアカアと鳴きながら庭の木の周りを飛び回ると、何十匹ものセミが空に向かって飛び立ちます。そのセミを待っていましたとばかりに所長宅の屋根にいたカラスが飛び立ち捕まえるのです。

木の周りを回ってセミをあおり出す方法よりも、木の中にもぐってセミを追い出す方法の方が効率がよいということなのでしょう。カラスがクルマを車道に置き、車にひき割らせて食べるということや高いところから落として割って食べるということとはよく知られた話ですが、カラス同士が協力して餌を捕るという状況を目の当たりにすると、改めてカラスの知恵、その賢さに感心させられます。カラスの訪問はできることならお断りしたいところですが……

暑い夏とセミの声……夏の風物詩を味わえることの喜びをかみしめ、自然の恩恵に感謝する毎日です。